

歴史

NO. 8262

23年12月8日

中通病院労働組合
☎833-7937

2023年日本平和大会開催される

<開会集会>



この度、鹿児島で開催された2023年平和大会に参加し、戦争の歴史の学びと現状の平和に関して考える機会となりました。

11日は開会集会、学びと交流のつどい（鹿児島の戦争と平和の歴史学習交流会）に参加しました。開会集会

は、島大空襲を実際に体験された、中精一さんという方の戦争体験談です。当時の戦争では鹿児島の約89%が被害を受け、中さんは小学校6年生の時に空襲の被害を受けました。防空壕の中に家族で隠れましたが、砲撃された弾の一部が出入り口を塞ぐように燃え上がって

いました。この特攻の歴史について学びました。当時の戦況として日本はアメリカに対して圧倒的な軍事力の差があり、打開策の一つとして特攻が提案されたそうです。特攻隊員としては年少は17歳で構成されていました。形式的には志願制ですが、当時の日本の教育の影響もあり、愛国心の名のもとに

リハビリ技術分会
理学療法士

塚本大輝

では衆議院議員や沖縄県知事、ウクライナや韓国の方など、様々な立場から戦争反対への思い、平和を願う思いを話していました。

また、沖縄、九州地方をはじめとして日本全国からの参加者がおり、戦争や公害、軍地基地などの現状の問題と闘争について熱く訴えていました。事も記憶に残っています。

プログラムの中で特に印象深く残っているのが、鹿児島大空襲を実際に体験された、中精一さんという方の戦争体験談です。当時の戦争では鹿児島の約89%が被害を受け、中さんは小学校6年生の時に空襲の被害を受けました。防空壕の中に家族で隠れましたが、砲撃された弾の一部が出入り口を塞ぐように燃え上がって

しまいました。前日の雨で防空壕の中に溜まった水を皆で必死にかけて脱出したと語っていました。また、必死の思いで生き残ったものの、その後は食糧難で辛い思いをしたようです。

肉屋では牛肉を10グラムだけ注文、ところてんだけを食べる、配給でもらうザラメにはダニが湧いていた、と現在の日本では考えられないような状況だったそうです。戦争当時の生々しい話を実体験された方から語つていただき、戦争の悲惨さをより鮮明に知ることができました。学びと交流のつどいでは主に知覧で

の特攻の歴史について学びました。当時の戦況として日本はアメリカに対して圧倒的な軍事力の差があり、打開策の一つとして特攻が提案されたそうです。特攻隊員としては年少は17歳で構成されていました。形式的には志願制ですが、当時の日本の教育の影響もあり、愛国心の名のもとに

<分科会>



実際にはほぼ強制的に志願させられていたそうです。また、命中率は約6%であったにも関わらず、当時の日本軍上層部は若者に特攻をするよう指示していたとのことでした。この話を聞き、誰もが戦争には負けると分かった上でこのような捨て身の作戦をしなければいけない当時の若者の無念さと日本軍上層部の愚かさに落胆する思いでした。

私も特攻隊員と同じ年であり、大切な家族や友人がいる中で命を無下に捨てなければいけない状況になると考えると強い恐怖を感じました。なにより國のためなら命も惜しきれど死ななければいけない状況で、どんな思いで遺書を書いていたのか想像もつかないほど残酷な事だと感じました。

2日間を通して改めて戦争の悲惨さを痛感しました。九州地方では学校で戦争関連の歴史や現状の日本の学びに力を入れているのか分かりませんが、反戦抗議などを実行している際に高校生が自分の意見を話していくそうです。私はこれまで戦争について学校の授業やテレビ等で知っていたつもりでし

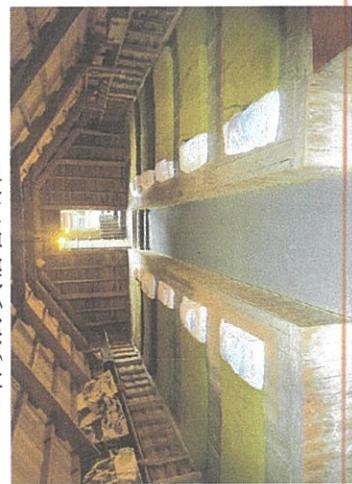
たが、どこか他人事のように捉えていたと今回の平和大会を通して感じました。自分が生活している中では平和だと感じても、近年日本では軍備拡大の動きが強く



<パレード>

なつており、それに伴い日本各地で軍備の被害を受けている場所が多く存在していることを知りました。特攻隊の話から当時の日本の教育は平和とは程遠い教育をしていました。私はこんなにも凄惨な過去をもつ日本だからこそ、より戦争や平和について考える機会を増やし、よりよい教育によってこそ日本全体が平和に向かって歩んでいくのではと考えます。

<特攻隊員宿舎内部>



<特攻隊員宿舎内部>



<戦闘機>